

令和元年度 事業目標と結果 (事業所名: グループホーム 陽だまりの郷)

(全体総括)

①では圧力鍋を利用した調理を行う事で軟らかさの調整や、食べられる食材が増えた方も上手く導入できた。栄養評価への取り組みも1年間でBMI減少が平均1%以内で食事へのアプローチができていた。うまくいかなかった点として圧力鍋の講習会を行ったが、使用する事に苦手意識がある職員が多く、気軽に鍋を使い切れていなかった。②では通年レクが好評で皆さんからの評価が大きく、続けてほしいという声が多く、実施後は周辺症状に変化があった方が増えていた。うまくいかなかった点として、学習療法への取り組みが遅れており、次年度は計画的に取り組んでいく。③は、3名の看取りを行った。初めてあじさいユニットで2名の看取りを行い職員間での連携、医師・看護師との連携など課題が多く感じられた。特に職員間での情報共有が甘く、ご家族と連携を図る上できちんと伝えられていなかった事もあった。その為、次年度は情報をこまめに報告し、家族と小さな事でも完結させる。入居者懇談(4回実施)では、終末期の過ごし方、在りたい姿を会議形式で気楽に話し、たくさんの情報をもらう事が出来た。また、職員間で命の支援をする事で大切な事を入居者さんに学ばせて頂いた。次年度も終末期支援には特化して職員全員で全力で取り組んでいきたい。

課題・重点	目標項目	目標水準	結果	次年度へ向けて
①元気で長生きができる	バランスの良い食事と、栄養	BMI ±3%以内	年間平均(15名) BMI -0.9%	職員が栄養評価を知る仕組み作りを毎月の評価で行い、更に個人アセスメントを深めフレイル対策を強化し、食、運動、口腔ケアなどの観点からアプローチできるように支援を行う
②認知症を進行させない	認知症ケアの充実	ケアの変化指数 平均+5点	ケア変化の調査指数 平均+3点	毎月の余暇レクを継続して学習療法を個人的に取り入れながら、楽しく生活し認知症が良くなる生活の環境作りをする
③終末期支援の充実を行う	終末期支援の充実	終末期満足度調査 100%	終末期満足度調査 80%・看取り希望者5名	終末期支援の、研修や勉強会、環境作りをご本人の声を聴きながら家族と共に支援を行っていく 今年度実施したエンディングノートを次年度も作成する

令和元年度（1月～3月） 会議・委員会 事業所名：グループホーム 陽だまりの郷

会議

会議名	開催日	参加者	主な議題
陽だまりの郷 全体会議	R2.1.20	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、禎島、佐藤将、渋谷、竹内、前田、高橋千、船木、高橋瞳、古市、古瀬、得能	ホーム長、各管理者報告、各委員会連絡事項報告 その他、連絡検討事項報告
陽だまりの郷 全体会議	R2.2.10	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、禎島、佐藤将、渋谷、竹内、前田、高橋千、高橋瞳、古瀬、得能、堀口	ホーム長、各管理者報告、各委員会連絡事項報告 その他、連絡検討事項報告
陽だまりの郷 全体会議	R2.3.23	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、禎島、佐藤将、渋谷、今田、前田、高橋瞳、古市、曾我部、得能、高橋良	ホーム長、各管理者報告、各委員会連絡事項報告 その他、連絡検討事項報告
運営推進会議	R2.1.20	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、地域包括センター宮本氏、横山氏、ご家族野々宮氏、吉田氏	身体拘束適正化委員会主催研修、運営状況報告、報告事項等
さくら会議	R2.1.21	安部、鍵市、高橋瞳、古市、古瀬、曾我部、山口、三浦、佐藤く	モニタリング、業務報告、連絡、検討。アメンバー経営について、行事評価、計画、次月予定打ち合わせ
さくら会議	R2.2.26	安部、鍵市、高橋瞳、古市、古瀬、曾我部、山口、三浦	モニタリング、業務報告、連絡、検討。アメンバー経営について、行事評価、計画、次月予定打ち合わせ
さくら会議	R2.3.27	安部、鍵市、高橋瞳、古市、古瀬、曾我部、山口、三浦	モニタリング、業務報告、連絡、検討。アメンバー経営について、行事評価、計画、次月予定打ち合わせ
あじさい会議	R2.1.29	安部、浅野、高橋良、得能、高橋ゆ、堀口、後藤、佐藤百	モニタリング、業務報告、連絡、検討。アメンバー経営について、行事評価、計画、次月予定打ち合わせ
あじさい会議	R2.2.26	安部、浅野、高橋良、得能、高橋ゆ、堀口、後藤、長面川	モニタリング、業務報告、連絡、検討。アメンバー経営について、行事評価、計画、次月予定打ち合わせ
あじさい会議	R2.3.24	安部、浅野、高橋良、得能、高橋ゆ、堀口、後藤、佐藤百、杉原	モニタリング、業務報告、連絡、検討。アメンバー経営について、行事評価、計画、次月予定打ち合わせ

委員会

委員会名	開催日	参加者	主な議題
食事係	R2.1.6	安部、杉原、高橋千、高橋瞳	喫茶レク打ち合わせ、食中毒対策、献立検討、調理方法など
食事係	R2.2.6	安部、杉原、高橋千、山口	喫茶レク打ち合わせ、食中毒対策、献立検討、調理方法など
食事係	R2.3.5	安部、杉原、高橋千、山口	喫茶レク打ち合わせ、食中毒対策、献立検討、調理方法など、今年度の反省と引き継ぎ事項、米、献立当番などの振り返り
互助会会議	R2.3.31	安部、鍵市、前田、得能	今年度の反省、次年度に向けての打ち合わせ
リスクマネジメント会議	R2.2.7	安部、古市、花谷、浅野	事故、気づき報告などの評価、対策

委員会

委員会名	開催日	参加者	主な議題
リスクマネジメント会議	R2.2.26	安部、古市、花谷、浅野	事故、気づき報告などの評価、対策、3月リスク研修内容の打ち合わせ
リスクマネジメント会議	R2.3.16	小玉、花谷、古市、堀口	事故、気づき報告などの評価、対策、当月研修に向けて内容を確認する
感染防止委員会	R2.1.18	安部、禎島、浅野	12月の感染状況、感染対策について（B型インフルエンザ流行への対策など）
感染防止委員会	R2.2.7	安部、禎島、浅野、曾我部	1月の感染状況、近隣で流行期の感染症について、感染対策について
感染防止委員会	R2.2.18	小玉、安部、禎島、花谷、鍵市	新型コロナウイルス対策会議、マスク着用、消毒の確認、備蓄マスクや消毒剤の確認と対策、面会の制限等を踏まえた施設対策、職員の感染予防策など
感染防止委員会	R2.3.6	小玉、安部、禎島、浅野、曾我部	2月の感染状況、今年度のまとめと、次年度の引継ぎ、コロナウイルス対策について
車輛防災委員会	R2.1.26	小玉、鍵市、花谷、高橋良	車輛の確認、内部研修内容を定める
車輛防災委員会	R2.2.20	小玉、鍵市、花谷、高橋良	車輛の確認、内部研修内容を定める
車輛防災委員会	R2.3.17	小玉、鍵市、花谷、高橋良	今年度の反省、次年度に向けての打ち合わせ、雨漏りしないように秋の点検時に落ち葉などを確認する
身体拘束適正化委員会	R2.1.15	小玉、安部、古瀬、山下	内部研修内容打ち合わせ
身体拘束適正化委員会	R2.3.18	安部、古瀬、山下	今年度の反省、次年度引継ぎ書の確認
備品会議	R2.3.10	安部、浅野、竹内、三浦	災害備品の備蓄について、今年度の反省、次年度に向けての引継ぎ

研修

研修名	実施日	参加者	内容
陽だまりの郷 内部研修	R2.1.20	ホーム長、小玉、安部、鍵市、花谷、浅野、古市、高橋瞳、古瀬、三浦、山下、佐藤将、禎島、渋谷、竹内、高橋千、前田、船木、得能、包括職員2名、利用者ご家族2名	「身体拘束適正化委員会研修」 高齢者虐待防止法、虐待種類とその概要、グループワーク（事例検討）
陽だまりの郷 内部研修	R2.2.10	ホーム長、小玉、安部、鍵市、花谷、浅野、古瀬、高橋瞳、山下、佐藤将、禎島、渋谷、竹内、高橋千、前田、得能、堀口、高橋良	「車両防災研修」 備品、備蓄品について、ブレーカーの落とし方研修、インカムの使用方法、火災発生時の避難経路、避難順位について
陽だまりの郷 内部研修	R2.3.23	ホーム長、小玉、安部、浅野、鍵市、花谷、山下、前田、渋谷、今田、高橋瞳、古市、曾我部、得能、堀口、高橋良、後藤	「事故報告と事故検証」 令和元年度陽だまりの郷事故内容、気づき報告書から事故リスクの軽減について、グループワーク（事故振り返りと、対策について）
デイサービス協会 実践者研修	R2.2.4	高橋瞳美	実践者研修 自施設実習報告会

令和元年度（1月～3月） 行事 事業所名： グループホーム 陽だまりの郷

行事

行事名	開催日	参加人数	参加者
陽だまりの郷 合同 新年会	R2.1.10	16名	入居者16名
陽だまりの郷 合同 豆まき	R2.2.3	17名	入居者17名
バレンタインレク	R2.2.14	18名	入居者18名
入居者懇談会	R2.2.19	11名	入居者11名
さくら誕生会	R2.3.11	9名	入居者9名
あじさい誕生会	R2.3.5	8名	入居者8名

行事予定（4月～6月）

行事名	開催日	参加人数	参加者

令和元年度

事業所名	グループホームさくら
------	------------

利用者数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準人数(人)		270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	261	279	279
延利用人数(人)	H30	233	272	240	279	279	270	279	270	279	279	252	279	268
	H31	253	250	270	272	279	270	279	270	274	263	255	279	268
稼働率(%)	H30	86.3%	97.5%	88.9%	100.0%	100.0%	91.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%
	H31	93.7%	89.6%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%	97.3%	98.8%	100.0%	98.0%
収入(千円)	H30	2,806	3,264	2,895	3,342	3,372	3,112	3,353	3,299	3,414	3,166	3,080	3,409	3,209
	H31	3,147	3,007	3,222	3,269	3,326	3,253	3,394	3,192	3,377	3,048	3,137	3,408	3,237
収入差額(千円)		341	-257	327	-73	-46	141	41	-107	-37	-118	57	-1	2%

職員数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	正規	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
	有期	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
	パート	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2.9

令和元年度

事業所名 グループホームあじさい

利用者数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準人数(人)		270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	261	279	275
延利用人数(人)	H30	270	279	270	266	249	239	263	251	279	279	252	279	265
	H31	270	279	260	279	279	269	265	266	268	268	261	266	269
稼働率(%)	H30	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%	94.6%	94.3%	97.1%	94.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.2%
	H31	100.0%	100.0%	96.3%	100.0%	100.0%	99.8%	97.5%	99.3%	98.0%	98.0%	100.0%	98.0%	98.9%
収入(千円)	H30	3,253	3,362	3,254	3,203	3,466	2,940	3,184	2,994	4,891	3,419	3,095	3,445	3,376
	H31	3,263	3,382	3,161	3,396	3,367	3,349	3,284	3,183	3,385	3,322	3,532	3,325	3,329
収入差額(千円)		10	20	-93	193	-99	409	100	189	-1,506	-97	437	-120	-46

職員数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	正規	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
	有期	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4	4	3.8
	パート	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	2.9

令和元年度 事業目標と結果 (事業所名: 小規模多機能ホーム 陽だまりの郷)

(全体総括)

昨年度は認知症の進行や予防に力を入れ学習療法を取り入れた。学習療法の定着に時間はかかったが、成果が現れた利用の方もいた。また職員とのコミュニケーションツール、昔の話と一緒にする回想法にもなり、認知症予防や進行予防にもなった。入院した方に関する退院後の支援、泊りサービスや生活リハビリにも力を入れ在宅へ帰ってくる事が出来ています。しかし、在宅で生活続けたいという本人の思いと家族さんの介護負担のための施設入所希望と相違があり、7名が入所になった。来年度は家族への介護負担への支援を強化も行い、利用者様が納得できるまで在宅の実現に向けて取り組んでいきます。

課題・重点	目標項目	目標水準	結果	次年度へ向けて
認知症の進行を予防する	①学習療法の取り組み ②回想法の取り組み	・認知症スケール低下を防ぐ ・認知症の進行を防ぎ、在宅生活を続ける	・認知症スケールに関しては学習療法を行っている方に関しては、10名ほどいるが、点数が上がっている方と、維持方が8割、下がっている方に関しては2割となった ・今年度施設入所に関しては、1月までで7名(5名GH、2名かおる園)	・学習療法の継続 ・やりがいのある、張り合いのある事の提供
退院後在宅に戻れるまでの、生活リハビリ・体力回復をする	生活リハビリの充実	退院後在宅復帰者人数	今年度は、7名の方が入院。5名退院。3名は退院後の泊りサービスを利用し、在宅へ戻っている。また新規で3名の方が病院からの紹介で利用開始になった	病院にある、地域医療連携室との連携をさらに深め退院後在宅復帰を望む人への介護サービス、介護保険外サービスを行う

会議

会議名	開催日	参加者	主な議題
陽だまりの郷 全体会議	R2.1.20	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、禎島、佐藤将、渋谷、竹内、前田、高橋千、船木、高橋瞳、古市、古瀬、得能	ホーム長、各管理者報告、各委員会連絡事項報告 その他、連絡検討事項報告
陽だまりの郷 全体会議	R2.2.10	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、禎島、佐藤将、渋谷、竹内、前田、高橋千、高橋瞳、古瀬、得能、堀口	ホーム長、各管理者報告、各委員会連絡事項報告 その他、連絡検討事項報告
陽だまりの郷 全体会議	R2.3.23	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、禎島、佐藤将、渋谷、今田、前田、高橋瞳、古市、曾我部、得能、高橋良	ホーム長、各管理者報告、各委員会連絡事項報告 その他、連絡検討事項報告
運営推進会議	R2.1.20	ホーム長、小玉、安部、鍵市、浅野、花谷、山下、地域包括センター宮本氏、横山氏、ご家族野々宮氏、吉田氏	身体拘束適正化委員会主催研修、運営状況報告、報告事項等
ユニット会議	R2.1.29	小玉、花谷、山下、前田、渋谷、高橋、佐藤将、禎島、竹内	モニタリング、業務改善話し合い、アメンバー経営について、行事反省、行事計画、次月予定打ち合わせ
ユニット会議	R2.2.26	小玉、花谷、山下、前田、渋谷、高橋、佐藤将、禎島、竹内	モニタリング、業務改善話し合い、アメンバー経営について、行事反省、行事計画、次月予定打ち合わせ
ユニット会議	R2.3.27	小玉、花谷、山下、前田、渋谷、高橋、佐藤将、禎島、竹内	モニタリング、業務改善話し合い、アメンバー経営について、行事反省、行事計画、次月予定打ち合わせ

委員会

委員会名	開催日	参加者	主な議題
食事係	R2.1.6	安部、杉原、高橋千、高橋瞳	喫茶レク打ち合わせ、食中毒対策、献立検討、調理方法など
食事係	R2.2.6	安部、杉原、高橋千、山口	喫茶レク打ち合わせ、食中毒対策、献立検討、調理方法など
食事係	R2.3.5	安部、杉原、高橋千、山口	喫茶レク打ち合わせ、食中毒対策、献立検討、調理方法など、今年度の反省と引き継ぎ事項、米、献立当番などの振り返り
互助会会議	R2.3.31	安部、鍵市、前田、得能	今年度の反省、次年度に向けての打ち合わせ
リスクマネジメント会議	R2.2.7	安部、古市、花谷、浅野	事故、気づき報告などの評価、対策
リスクマネジメント会議	R2.2.26	安部、古市、花谷、浅野	事故、気づき報告などの評価、対策、3月リスク研修内容の打ち合わせ
リスクマネジメント会議	R2.3.16	小玉、花谷、古市、堀口	事故、気づき報告などの評価、対策、当月研修に向けて内容を確認する
感染防止委員会	R2.1.18	安部、禎島、浅野	12月の感染状況、感染対策について（B型インフルエンザ流行への対策など）

委員会

委員会名	開催日	参加者	主な議題
感染防止委員会	R2.2.7	安部、禎島、浅野、曾我部	1月の感染状況、近隣で流行期の感染症について、感染対策について
感染防止委員会	R2.2.18	小玉、安部、禎島、花谷、鍵市	新型コロナウイルス対策会議、マスク着用、消毒の確認、備蓄マスクや消毒剤の確認と対策、面会の制限等を踏まえた施設対策、職員の感染予防策など
感染防止委員会	R2.3.6	小玉、安部、禎島、浅野、曾我部	2月の感染状況、今年度のまとめと、次年度の引継ぎ、コロナウイルス対策について
車輛防災委員会	R2.1.26	小玉、鍵市、花谷、高橋良	車輛の確認、内部研修内容を決める
車輛防災委員会	R2.2.20	小玉、鍵市、花谷、高橋良	車輛の確認、内部研修内容を決める
車輛防災委員会	R2.3.17	小玉、鍵市、花谷、高橋良	今年度の反省、次年度に向けての打ち合わせ、雨漏りしないように秋の点検時に落ち葉などを確認する
身体拘束適正化委員会	R2.1.15	小玉、安部、古瀬、山下	内部研修内容打ち合わせ
身体拘束適正化委員会	R2.3.18	安部、古瀬、山下	今年度の反省、次年度引継ぎ書の確認
備品会議	R2.3.10	安部、浅野、竹内、三浦	災害備品の備蓄について、今年度の反省、次年度に向けての引継ぎ

研修

研修名	実施日	参加者	内容
陽だまりの郷 内部研修	R2.1.20	ホーム長、小玉、安部、鍵市、花谷、浅野、古市、高橋瞳、古瀬、三浦、山下、佐藤将、禎島、渋谷、竹内、高橋千、前田、船木、得能、包括職員2名、利用者ご家族2名	「身体拘束適正化委員会研修」 高齢者虐待防止法、虐待種類とその概要、グループワーク（事例検討）
陽だまりの郷 内部研修	R2.2.10	ホーム長、小玉、安部、鍵市、花谷、浅野、古瀬、高橋瞳、山下、佐藤将、禎島、渋谷、竹内、高橋千、前田、得能、堀口、高橋良	「車両防災研修」 備品、備蓄品について、ブレーカーの落とし方研修、インカムの使用方法、火災発生時の避難経路、避難順位について
陽だまりの郷 内部研修	R2.3.23	ホーム長、小玉、安部、浅野、鍵市、花谷、山下、前田、渋谷、今田、高橋瞳、古市、曾我部、得能、堀口、高橋良、後藤	「事故報告と事故検証」 令和元年度陽だまりの郷事故内容、気づき報告書から事故リスクの軽減について、グループワーク（事故振り返りと、対策について）
デイサービス協会 実践者研修	R2.2.4	船木 友里	実践者研修 自施設実習報告会

令和元年度（1月～3月） 行事 事業所名：小規模多機能ホーム 陽だまりの郷

行事

行事名	開催日	参加人数	参加者
陽だまり合同 新年会	R2.1.12	32名	利用者 25名 職員 7名
陽だまりの郷合同節分レク	R2.2.3	34名	利用者 27名 職員 7名

行事予定（4月～6月）

行事名	開催日	参加人数	参加者

令和元年度

利用者数推移

(4月～3月)

事業所名 小規模多機能ホームたんぽぽ

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準人数(人)		870	899	870	899	899	870	899	870	899	899	841	899	885
延利用人数(人)	H30	830	810	815	882	882	858	879	857	899	899	841	864	860
	H31	870	882	850	851	886	870	882	850	898	868	789	868	864
稼働率(%)	H30	95.4%	90.1%	93.7%	98.1%	98.1%	98.6%	97.8%	98.5%	100.0%	100.0%	100.0%	96.1%	97.2%
	H31	100.0%	98.1%	97.7%	94.7%	98.6%	100.0%	98.1%	98%	100%	96.6%	93.8%	96.6%	97.6%
収入(千円)	H30	6,585	6,049	6,155	5,909	6,419	6,340	6,133	5,961	6,200	6,624	6,287	6,093	6,230
	H31	6,722	6,167	6,261	5,503	6,071	7,461	6,720	6,770	6,996	6,394	5,957	6,928	6,496
収入差額(千円)		137	118	106	-406	-348	1,121	587	809	796	-230	-330	835	266

職員数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	正規	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8.0
	有期	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
	パート	4	4	4	4	5	6	6	6	6	6	6	6	5.3

令和元年度 事業目標と結果 (事業所名:リハヒーリング・ハーブ)

(全体総括)

新店舗に移転し1年目の運営ビジョンを、家族で通える新時代のリハビリと病みつきになる癒しの場!とした。『ニーズに合わせたリハビリ(プログラム)の提供』『リラクゼーション効果でリフレッシュ(楽しい、気持ち良い、楽になる)ができる』を運営方針としたが、その先駆けとして、事業所を滝川市民に知って頂くことを取り組みとし、講演会、見学会、多くのお試し利用の受け入れ、担当者会議、ケアマネ(居宅事業所)への説明会、パンフレット、ポスター、ラジオ等での広報活動を行ってきたが、本当にリハビリ(パワーリハビリテーション)が必要な方には届いていない様に感じる。次年度は、医療、居宅、ご家族、脳梗塞、パーキンソン病などの対象者の方へ、どのように配信していくかを、改めて検証し進めていく。

課題・重点	目標項目	目標水準	結果	次年度へ向けて
まだまだ事業所を知らない人が多い(知っていただく)	地域への配信	新規の年間契約数30件	できたが、まだまだ足りない ・講演会での事例発表や近隣居宅(ケアマネ)への取り組みの紹介の実施。 より分かりやすい事例の作成が多く必要と感じる	継続し、疾患を改善させるより分かりやすい事例の作成。効果を配信することで事業所の認知度の向上を図る
キャンセル(入院・体調不良等)が多い	・原因の確認と解決 ・医療、ケアマネとの連携の強化	キャンセル数15%以下に抑える。	出来ない ・入院や体調不良の方だけではなく、疾患でのお薬の調整での長期の入院も多く抑えられない月が多かった	継続し、利用者が効果を実感することで、運動の必要性、生活の中でデイの優先順位を向上させる為のプログラム(サービス)を作る
書類(計画書・モニタリング)の遅れがある	・業務時間 ・書類(計画書、モニタリング)作成状況	残業なし 業務遅れなし	ほぼできた。 ・ミーティングを第2週目に実施し、書類状況の確認と勤務時間の見直しを行ったが、実地指導に伴う書類整備作業が遅れなく行えた	油断せず計画的な業務の遂行を継続する

令和元年度（1月～3月） 会議・委員会 事業所名：リハヒーリング・ハーブ

会議

会議名	開催日	参加者	主な議題
全体ミーティング	R2.1.11	有馬、貝森、関口、塚原、本間	1.報告・連絡事項（担当者会議、お試し利用、新規利用者、利用終了者について）、 2.検討事項（個別訪問実施利用者管理、業務内容分担化検討車両整備について） 3.感染・事故対策委員会より
全体ミーティング	R2.2.1	有馬、菊池、貝森、小野、関口、塚原、田中(道)、本間	1.報告・連絡事項（担当者会議、お試し利用、新規利用者、利用終了者について） 2.検討事項（パワーリハ研修会について反省・今後について） 3.感染・事故対策委員会より
全体ミーティング	R2.3.14	有馬、菊池、貝森、本間、田中、関口、塚原、小野、田中(由)	1.報告・連絡事項（担当者会議、お試し利用、新規利用者、利用終了者について） 2.検討事項（事例作成報告・見学者対応について個々の年間計画・目標について） 3.感染・事故・災害対策委員会より 4.身体拘束虐待苦情委員会・第三者委員会より

委員会

委員会名	開催日	参加者	主な議題
感染対策委員会	R2.1.11	有馬、貝森、関口、塚原、本間	・地域感染症状況について ・インフルエンザ対応について ・第3回感染症・衛生管理委員会結果について
感染対策委員会	R2.2.1	有馬、菊池、貝森、小野、関口、塚原、田中(道)、本間	・地域感染症状況について ・インフルエンザ対応について
感染対策委員会	R2.3.14	有馬、菊池、貝森、本間、田中、関口、塚原、小野、田中(由)	・地域感染症状況について ・インフルエンザ対応について ・第4回感染症・衛生管理委員会結果について
災害対策委員会	R2.3.14	有馬、菊池、貝森、本間、田中、関口、塚原、小野、田中(由)	・第4回法人管理 災害対策委員会開催結果について ・BCP作成更新について ・災害時の各事業所情報共有について
事故再発防止委員会	R2.1.11	有馬、貝森、関口、塚原、本間	・12月事故報告 ・各事業所事故内容・予防策の検討再発防止について ・第8回開催結果 法人管理事故再発防止委員会より
事故再発防止委員会	R2.2.1	有馬、菊池、貝森、小野、関口、塚原、田中(道)、本間	・1月事故報告 ・各事業所事故内容・予防策の検討再発防止について ・第9回開催結果 法人管理事故再発防止委員会より
事故再発防止委員会	R2.3.14	有馬、菊池、貝森、本間、田中、関口、塚原、小野、田中(由)	・2月事故報告 ・各事業所事故内容・予防策の検討再発防止について ・第10回開催結果 法人管理事故再発防止委員会より
身体拘束・虐待・苦情委員会	R2.3.14	有馬、菊池、貝森、本間、田中、関口、塚原、小野、田中(由)	・第4回身体拘束・虐待・苦情委員会について
第三者委員会	R2.3.14	有馬、菊池、貝森、本間、田中、関口、塚原、小野、田中(由)	・第三者委員会内容報告

研修

研修名	実施日	参加者	内容
パワーリハビリ研修会	R2.2.1	有馬、菊池、貝森、田中(道)、本間、田中(由)、小野、塚原	・パワーリハビリ講習・実技指導 ・個別事例検討会

令和元年度

利用者数推移

(4月～3月)

事業所名 リハ ヒーリング・ハーブ

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準人数(人)		880	920	800	920	880	840	880	840	840	800	800	880	857
延利用人数(人)	H30	494	562	594	594	568	468	628	563	483	455	484	525	535
	H31	487	476	416	482	448	441	435	453	463	427	417	375	443
稼働率(%)	H30	56.1%	61.1%	74.3%	64.6%	64.5%	58.5%	68.0%	64.0%	60.0%	56.8%	60.0%	60.0%	62.3%
	H31	55.3%	51.7%	52.0%	52.4%	50.9%	53.0%	50.0%	54.0%	55.2%	54.0%	53.0%	43.0%	52.0%
収入(千円)	H30	2,721	3,037	3,418	3,256	3,109	2,769	3,277	3,209	2,777	2,637	2,731	2,976	2,993
	H31	2,670	2,472	2,725	2,601	2,362	2,553	2,377	2,607	2,602	2,524	2,398	2,057	2,496
収入差額(千円)		-51	-565	-693	-655	-747	-216	-900	-602	-175	-113	-333	-919	-497
保険外収入(千円)	H31	251	72	95	232	62	154	99	65	49	68	52	0	100

職員数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	正規	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.3
	有期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	パート	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

令和元年度 事業目標と結果 (事業所名:生活介護事業所ひかり)

(全体総括)

年度予算以上の事業活動収入を目標に、新規利用者の獲得や利用が停滞されている利用者の通所が増加するように養護学校の実習や外部からの体験利用、事業所見学や利用相談を積極的に受け入れる取り組みを今まで以上にやったことで、無事1億円以上の収入を達成することができた。
また、地域の団体(自衛隊や少年団など)が建物を使用してもらえる頻度も増え、内部の掃除を利用者様にさせていただくことで、社会的役割を意識した活動も定着した。

課題・重点	目標項目	目標水準	結果	次年度へ向けて
高齢になると体力や疾病等も伴い、通所をお休みがちになり稼働率が下がる	活動編成の変更 季節感のある活動 活動内容の変更(機能維持プログラム)	対象高齢者 415日/3人延	400日	今後、他事業所に通う高齢利用者等の受け入れも想定していく
働く意欲の高い方、養護学校卒業者等から望まれる幅広い活動プログラムが必要である	委託作業 生産・販売作業 奉仕活動	工賃支給対象者 35名	33名	利用者の新たな表情や言動を引き出す支援を基本とし、これまでの役割としてあったことも続けてもらい上記と合わせて特色を作っていく
GHの利用者が多く、生活の場と一体の利用希望は多いが、在宅からの受け入れを増やす必要がある	相談事業所へ実態聞き込み、売り込み	新規利用者の獲得 2名	新規利用契約 4名	実習や体験利用等の受け入れ、通信の発行を継続していく
地域からの関心を高めること、地域に認められることで協力者や社会資源を増やしていく必要がある	施設利用の宣伝PR活動を実施	施設利用延べ人数 200名	12団体が56回使用	新型コロナウイルスによる公共施設の休館や外出自粛が続くと、子供たちや休日の利用者が運動場所として使用することが想定される

令和元年度（1月～3月） 会議・委員会 生活介護事業所 ひかり

会議

会議名	開催日	参加者	主な議題
給食会議	R2.1.14	高桑主任、真鍋主任、柳浦主任	・次月の献立について ・検食簿の内容（意見）について検討
プラン会議	R2.1.15	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、原田、高崎、池野、山本	・現状と支援内容について（サービス担当者会議） ・次月モニタリング利用者の評価について
職員会議	R2.1.24	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、矢部、高崎、山本、泉谷	・連絡事項について ・協議案件について ・部門ミーティング
花月リーダー会議	R2.1.31	旭管理者、長田管理者、高桑主任、真鍋主任、木村主任、岡本主任、吉田主任	・生活介護事業所としての連絡事項について ・グループホームとしての連絡事項について
給食会議	R2.2.12	土佐管理者、高桑主任、柳浦主任	・次月の献立について ・検食簿の内容（意見）について検討 ・イベント食について
プラン会議	R2.2.19	高桑主任、真鍋主任、河村、原田、高崎、池野、矢部、二川、山本	・現状と支援内容について（サービス担当者会議） ・次月モニタリング利用者の評価について
職員会議	R2.2.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、原田、高崎、矢部、二川、山本	・連絡事項について ・協議案件について ・部門ミーティング
花月リーダー会議	R2.2.28	旭管理者、高桑主任、真鍋主任、木村主任、岡本主任、吉田主任	・生活介護事業所としての連絡事項について ・グループホームとしての連絡事項について
給食会議	R2.3.12	土佐管理者、高桑主任、柳浦主任	・次月の献立について ・検食簿の内容（意見）について検討 ・イベント食について
プラン会議	R2.3.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、高崎、矢部、山本（佐藤、梶川）	・現状と支援内容について（サービス担当者会議） ・次月モニタリング利用者の評価について
職員全体会議	R2.3.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、高崎、矢部、山本（佐藤、梶川）	・連絡事項について ・協議案件について ・部門ミーティング
花月リーダー会議	R2.3.27	旭管理者、長田管理者、高桑主任、真鍋主任、木村主任、岡本主任、吉田主任	・生活介護事業所としての連絡事項について ・グループホームとしての連絡事項について

委員会

委員会名	開催日	参加者	主な議題
花月障がいグループ 感染対策委員会	R2.1.14	旭管理者、本田看護師、入井看護師、池野、吉田、南出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今月の各事業所重点目標について ・ 感染症流行期のため予防策の情報共有 ・ 感染症発症状況について
虐待防止委員会	R2.1.24	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、矢部、高崎、山本、泉谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待を防止し、権利擁護に配慮した支援について
苦情解決委員会	R2.1.24	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、矢部、高崎、山本、泉谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気づかない相談、苦情は無かったかどうか ・ 相談、苦情に対する支援について
事故予防委員会	R2.1.24	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、矢部、高崎、山本、泉谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットの報告、改善策について ・ 事故報告、改善策について
花月障がいグループ 感染対策委員会	R2.2.11	旭管理者、古島管理者、長田管理者、本田看護師、吉田、小林、南出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今月の各事業所重点目標について ・ 感染症流行期のため予防策の情報共有 ・ 感染症発症状況について
虐待防止委員会	R2.2.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、原田、高崎、矢部、二川、山本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待を防止し、権利擁護に配慮した支援について
苦情解決委員会	R2.2.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、原田、高崎、矢部、二川、山本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気づかない相談、苦情は無かったかどうか ・ 相談、苦情に対する支援について
事故予防委員会	R2.2.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、原田、高崎、矢部、二川、山本	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットの報告、改善策について ・ 事故報告、改善策について
花月障がいグループ 感染対策委員会	R2.3.10	旭管理者、古島管理者、長田管理者、本田看護師、小林、吉田、南出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今月の各事業所重点目標について ・ 感染症流行期のため予防策の情報共有 ・ 感染症発症状況について
虐待防止委員会	R2.3.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、高崎、矢部、山本（佐藤、梶川）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待を防止し、権利擁護に配慮した支援について
苦情解決委員会	R2.3.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、高崎、矢部、山本（佐藤、梶川）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気づかない相談、苦情は無かったかどうか ・ 相談、苦情に対する支援について
事故予防委員会	R2.3.25	長田管理者、高桑主任、真鍋主任、河村、高崎、矢部、山本（佐藤、梶川）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットの報告、改善策について ・ 事故報告、改善策について

研修

研修名	実施日	参加者	内容
令和元年度全道施設長研修会	R2.2.17 ～ R2.2.18	長田 雅徳	防災（災害時の対応含む）に対する意識の再確認 先駆者の思いや功績について
相談支援従事者研修（サビ管向け）	R2.2.20 ～ R2.2.21	長田 雅徳	サービス管理責任者養成講習
サービス管理責任者等基礎研修（サビ管向け）	R2.2.27 ～ R2.2.28	長田 雅徳	サービス管理責任者養成講習

令和元年度

事業所名 生活介護事業所 ひかり

利用者数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準人数(人)		880	920	880	920	920	880	920	880	920	920	840	920	900
延利用人数(人)	H30	800	852	587	812	733	775	829	812	801	785	733	824	779
	H31	827	843	798	844	759	818	887	858	885	818	813	882	830
稼働率(%)	H30	90.9%	92.6%	66.7%	88.3%	79.7%	88.1%	90.1%	92.3%	87.1%	85.3%	87.3%	89.6%	86.5%
	H31	94.0%	91.6%	90.7%	91.7%	82.5%	93.0%	96.4%	97.5%	96.2%	88.9%	96.8%	95.9%	92.9%
収入(千円)	H30	7,848	8,360	5,821	7,921	7,134	7,665	8,158	7,895	7,711	7,619	7,148	7,977	7,609
	H31	8,247	8,296	7,995	8,499	7,676	8,309	9,097	8,817	9,023	8,324	8,204	8,951	8,459
収入差額(千円)		399	-64	2,174	578	542	644	939	922	1,312	705	1,056	974	849

職員数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	正規	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10.0
	有期	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1.5
	パート	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0

令和元年度 事業目標と結果 (事業所名:きつずでいここ)

(全体総括)

キメの細かい療育を展開していくにあたり、アセスメントの見直し、個別支援計画の見直しなどを行った。それと並行してクラスを2つに分け、その学年や個人に合った活動の提供を年間通して行うことが出来た。次年度はさらにクラスを1つ増やして、目的ごとのクラス編成を行い、保護者さんのニーズに応じた個別課題、SSTの展開を行っていく必要があると考える。中学進学を控えた児童もあり、移転も含め高学年の児童の療育にもさらに力を入れていく必要があると考える。

課題・重点	目標項目	目標水準	結果	次年度へ向けて
利用者さんが年間を通して継続して利用して頂けるようにする。	安定した受け入れの継続	利用延べ人数 年間2,370名 1日平均9.4名	利用延べ人数 年間2,685名 1人平均10.9名	ほぼ達成 通うお子さんや働く職員にとって立地が悪く人数も増え活動するスペースが狭い、加え送迎での子どもへの負担が大きいなどの課題に力を入れていく
子どもたちそれぞれの課題を見直し、統一した支援を行っていく	アセスメントに基づいた支援の実行	アセスメントシート 作成数35名	アセスメントシート 作成数35名	ほぼ達成 保護者から字が書けるようになってほしい、文字が読めるようになってほしいなど具体的な療育希望への対応に力を入れていく
サービス管理責任者だけでなく、現場の職員さんが個別支援計画を意識して仕事ができるようになる	個別支援計画の内容の充実	計画作成数4名 (高山・上口・畑・加藤)	計画作成数 3名 (高山・上口・加藤)	ほぼ達成 個別支援計画への課題については次年度も継続しながら、次の課題に着手していくこととする
低学年、高学年とクラスを2つに分けてそれぞれに必要な取り組みをする	(低学年クラス) 基本的な生活習慣の習得 (高学年クラス) 自分発信で判断・行動ができるようになる	(低学年クラス) チェックシート達成率 80% (高学年クラス) 放課後等デイ卒業者 3名	(低学年クラス) チェックシート達成率 70% (高学年クラス) 放課後等デイ卒業者 2名	ほぼ達成 2クラスから3クラスへと増設しさらに細かい療育の展開を行っていく

会議

会議名	開催日	参加者	主な議題
職員会議	R2.1.23	古島・高山・上口 畑・荒川・加藤 池端	・ SST、個別課題の進捗状況の確認 ・ 低学年クラス対象児童の今後の対応について
職員会議	R2.2.26	古島・高山・上口 畑・荒川・加藤 池端	・ 新規利用者のアセスメント結果 ・ 3クラス編成について
職員会議	R2.3.6	古島・高山・上口 畑・加藤	・ 新年度に向けた活動内容の検討 ・ 高学年クラス該当児童の今後の対応について
ケース会議	R2.1.30	古島・高山・上口	・ 該当児童の支援の評価及び今後の対応について
ケース会議	R2.2.21	古島・高山・上口	・ 該当児童の支援の評価及び今後の対応について
ケース会議	R2.3.20	古島・高山・上口	・ 該当児童の支援の評価及び今後の対応について

委員会

委員会名	開催日	参加者	主な議題
感染対策委員会	R2.1.14	旭管理者、本田看護師、入井看護師、池野、吉田、南出、古島	・ 今月の各事業所重点目標について ・ 感染症流行期のため予防策の情報共有 ・ 感染症発症状況について
虐待防止、苦情委員会	R2.1.29	古島・上口・高山	・ 事案の有無の確認 ・ 保護者からの要望等の確認
感染対策委員会	R2.2.11	旭管理者、長田管理者、本田看護師、吉田、小林、南出、古島	・ 今月の各事業所重点目標について ・ 感染症流行期のため予防策の情報共有 ・ 感染症発症状況について
虐待防止、苦情委員会	R2.2.14	古島・上口・高山	・ 事案の有無の確認 ・ 保護者からの要望等の確認
感染対策委員会	R2.3.10	旭管理者、長田管理者、本田看護師、小林、吉田、南出、古島	・ 今月の各事業所重点目標について ・ 感染症流行期のため予防策の情報共有 ・ 感染症発症状況について
虐待防止、苦情委員会	R2.3.20	古島・上口・高山	・ 事案の有無の確認 ・ 保護者からの要望等の確認

令和元年度（1月～3月） 行事 事業所名： きつずでいここ

行事

行事名	開催日	参加人数	参加者
茶話会	R2.1.23	12名	保護者 5名 作業療法士 1名 職員 5名

行事予定（4月～6月）

行事名	開催日	参加人数	参加者

令和元年度

事業所名	きつずでい ここ
------	----------

利用者数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準人数(人)		220	220	220	220	190	210	220	210	210	200	180	150	204
延利用人数(人)	H30	188	209	145	189	172	156	205	195	165	160	176	196	180
	H31	215	235	225	231	210	220	232	219	226	210	142	113	207
稼働率(%)	H30	85.5%	95.0%	65.9%	85.9%	90.5%	74.3%	93.2%	92.9%	78.6%	80.0%	97.8%	89.0%	85.7%
	H31	97.7%	106.8%	102.3%	105.0%	110.5%	104.8%	105.5%	104.3%	107.6%	105.0%	78.9%	75.3%	100.3%
収入(千円)	H30	1,990	2,168	1,664	2,137	1,886	1,635	2,150	2,054	1,773	1,739	1,842	2,087	1,927
	H31	2,257	2,435	2,342	2,441	2,272	2,276	2,434	2,279	2,384	2,288	1,500	1,216	2,177
収入差額(千円)		267	267	678	304	386	641	284	225	611	549	-342	-871	250

職員数推移

(4月～3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	正規	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
	有期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	パート	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6.3

令和元年度 事業目標と結果 (事業所名:共同生活援助事業所 花月ホームピンネ)

(全体総括)

サービスの質において、職員一人一人のスキルアップが図れた年となった。具体的には、①利用者様に対する個別支援の考え方 ②利用者様に対する向き合う姿勢 ③各棟チームとして取り組む姿勢 そして、一番大きな事は④『考える事の重要性を知る』です。その事により、根拠に基づく支援の確立が図れるようになった。また、①～④すべてが混ざりあい、利用者様に対する支援及び職員間の連携が図れ、活発的・活動性のある事業所へとようになってきたと感じる。

次年度においても、利用者様への声に耳を傾け、利用者様への『もがき・悩み』を簡単に解決できるかのように軽く受け流したりしないせずに、職員一同努めていきたい。

課題・重点	目標項目	目標水準	結果	次年度へ向けて
利用者様の事を知る及び社会性を持つ	内部研修の定着化	隔月にて実施	年間計画の沿って実施できた	継続(※当たり前の事項とし、事業計画には盛り込まない)
	外部研修への参加	参加者全員フィードバック研修の開催	研修後の報告会が定着された	継続(※当たり前の事項とし、事業計画には盛り込まない)
利用者の思いに寄り添う	アセスメント力を付けるために、利用者に興味を持つ。	半年に1回すべての利用者の個別支援計画の見直し実施	全職員への説明等は行えたが、完成度においての差が大きい	講義・説明の定着化
円滑な業務遂行を図る	手順書作成	手順書の完成	各棟の業務マニュアルの見直しは行えた	全棟共通事項の洗い出し・見直しを行っていく
棟目標を掲げる	各棟コンセプトを掲げる。	策定及び外部へのアプローチ	みらい棟 『一生安心して生活できる場所』 ぼえむ棟 『安心して生活できる場所』 らいむ棟 『楽しみを増やしたい(自信向上)』	昨年度と照らし合わせ、必要に応じ更新を掛ける